

進化経済学会

ニューズレター No. 38

July 2015

進化経済学会事務局 evoeco-post@bunken.co.jp
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
TEL：03-5389-6493
FAX：03-3368-2822



撮影：大西立顕

+++++

第 19 回小樽大会の開催報告
2014 年度若手セミナー開催報告
理事会報告
総会報告
2014 年度部会報告
第 20 回東京大会開催アナウンス
オータムカンファレンス案内
会員異動
その他

+++++

第19回小樽大会開催報告

第19回 大会組織委員会
委員長 江頭進
事務局 宮崎義久

第19回大会は、3月21日(土)、22日(日)に北海道の小樽商科大学で開催されました。2日間の参加者はおよそ120名でした。

大会は、分科会セッション、企画セッション、ポスターセッションから構成されました。報告数が多かったこともあり、今年度は特別講演を行いませんでした。

報告数は56本で16のセッション(うち企画セッションは8)となり、そのほかに6本のポスターセッション報告が行われました。本年度は、例年にもまして、報告内容が多岐にわたっており、各セッションで様々な議論が展開されました。なかには、本大会のテーマである「退行的進化を考える」にちなんだ報告や企画セッションなどもあり、進化経済学の新たな方向を考えるきっかけとなる報告・討論が行われました。

分科会セッションでは、「理論」や「実証研究」だけにとどまらず、「制度設計」、「メカニズム」、「シミュレーション」など様々なアプローチから進化経済学を対象とした研究成果の報告が行われました。

また、企画セッション『「進化経済学 応用」に向けて』では、西部忠会員(北海道大学)と吉田雅明会員(専修大学)が編集代表を務めた『進化経済学基礎』の課題をめぐって活発な議論が行われました。そもそも、同書は進化経済学の体系的な教科書として位置づけられており、その内容をめぐってこれまで学会などを通して活発な議論が行われてきました。とりわけ、従来の経済学の中心課題であるべき価値・価格論がないことが本書の理論的欠陥であるという批判に答えるため、今回は、進化経済学における価値と価格の意味について、さらに、基礎から応用に向けた今後の課題と展望について報告しました。報告後のコメントおよび質疑応答も活発に行われました。

このほかにも、「ポスト・ケインジアンと制度派経済学の融合は可能か?—資本主義の退行的進化をめぐって」、「J.R.コモンス『制度経済学』の現代的意義」などの制度派経済学の学説史的検討や「欧州統合のなかでの重層的な地域構造とマルチレベル・ガバナンス」、「フィールド社会実験のすすめ—スマートグリッドを事例に」、「地域ビジネス・エコシステムの進化」など多様なアプローチから現代社会の諸問題を読み解く報告・討論が行われました。

また、懇親会では、進化経済学会初代会長・瀬地

山敏会員からご挨拶いただき、学会を立ち上げた頃のお話や、本大会の様子などについて感想をいただきました。

本年度は、北海道での開催ということもあり、遠方からどれだけの会員の方々が訪れていただけたのかという不安もありましたが、例年と同様の参加者を得ることができ、大盛況のうちに終了することができました。

大会の運営において至らない部分もあったかとは思いますが、みなさまのご協力のおかげで無事に次の東京大会へバトンをつなぐことができました。本当にありがとうございました。

2014年度若手セミナー開催報告

瀬尾 崇(金沢大学)

2015年度の進化経済学会・若手セミナーは、昨年度に続き「英語論文執筆・投稿のコツ」をテーマとして、第19回年次大会に合わせて2015年3月21日(土)、小樽商科大学で開催された。年次大会プログラム開始前の午前中にもかかわらず、約30名の参加者があった。

内容は下記のとおりであった。

- 10:00-10:15 開催趣旨説明
- 10:05-10:40 依田高典会員(京都大学) + 質疑
- 10:40-11:15 福澤光啓会員(成蹊大学) + 質疑
- 11:15-11:50 八木紀一郎会員(摂南大学) + 質疑
- 11:50-12:00 EIERに関するアナウンス

前年度の若手セミナーでは、英語論文の執筆から投稿・掲載にいたる一連のプロセス全体にかかわるコツやポイントを4名の会員講師にレクチャーしていただいた。今年度はそれを受けて、さらに論文内容や論文構成にふみこんだポイントについて3名の会員講師にレクチャーしていただいた。当初、「理論」「実証・ケーススタディ」「歴史・制度」の3つのアプローチを設定し、各アプローチにおける入れるべき構成要素や論文の組み立て方のポイントを経験ある講師にレクチャーしていただく予定であったが、今回は講師依頼が非常に難航したため、開催直前で講師を確定することができなかった。3名の講師の方々には直前になっての打診をお詫びすると同時に、お引き受けくださったことに感謝申し上げるしだいである。

(1) 依田高典会員

依田会員ご自身の、これまでのレフェリード・ジ

ジャーナルへの投稿・掲載の経験をお話しされるなかに、若手会員にとって示唆に富むいくつかのポイントがあったように思われる。

・若手研究者が査読付き英文ジャーナルの執筆・投稿に慣れるためには、経験のある共著者と共同論文を書くのが近道である。

・英語の表現力ではなく、論文構成力が不足している側面が大きい。

・論文構成において“Introduction”が最も重要である。自身の論文の Research Question が先行研究に対してどれだけ新規性をもつかということを説得的に明示することが重要である。

・EIER で腕を磨きステップアップしていくべきである。

・チャンスがあれば在外研究を利用して論文執筆・添削の手順を身につけることも一つの手である。

(2) 福澤光啓会員

福澤会員ご自身の専門領域である組織論の観点から、現場重視の実証的アプローチの英語論文執筆のポイントがわかりやすくレクチャーされた。

・チームを組んで共著論文を執筆していく手法が紹介された。分担者各自の強みを活かして執筆の分担をする。

・海外の研究者との交流(海外での学会報告も含む)を通じて、当該専門領域における現在あるいは直近の「はやり」がわかる。海外での学会報告で audience の反応を確認したうえで投稿を判断するのも一つの方法である。

・現場重視の実証的アプローチとして、理論側・実証側双方からの接近、あるいはトンネルの掘削にたとえて、両側からバランスをとりながら接近していくことが重要である。

・いかに「すこみ」のあるデータを集めるかがカギとなる。そのうえで次の重要な作業として「概念化」がある。海外のレフェリーは実際の現場を知らないことが多いので、執筆者が現場で集めた知識・調査データを概念化して明示することが重要である。

(3) 八木紀一郎会員

セミナー最後の新たな EIER のシステムの紹介も兼ねてお話しいただいた。

・日本語よりも英語の方が、表現力の制約が逆にプラスになって筆が進むこともある。

・辞書を引く、校閲を受ける習慣をつけることが大切である。

・イントロ部分で、ファクトファインディング、データの解釈、何がアイデアの発展・応用なのかについてきちんと書く。

・先行研究を軽視・曲解して墓穴を掘らないように！

・本論までを長引かせないように心がける。

・簡潔な conclusion と印象的な title

・文献収集：データベース (NDLC, CLC, Webcat) の活用、古い辞典・年間・電話帳・新聞・蔵書目録など (現地であたりがあっても確認するのに時間がかかることもある)

・論文として評価されなくても (リジェクトされても)、著書のなかで生きることもあるのでとにかく執筆することが重要である。

「英語論文執筆・投稿のコツ」をテーマとした若手セミナーは、2016 年度でひとまず全 3 回シリーズを完結させる予定で企画された。次回第 3 弾では、実際の執筆・投稿プロセスを紹介・検証しながら、参加者で議論するという「実践編」として開催する予定である。2016 年度の第 20 回年次大会と同日開催の予定であり、多くの若手会員の参加をお願いするしだいである。

* 第三弾の「実践編」では、若手会員から数名、自らの執筆・投稿経験を紹介して下さるかたを募集したいと考えております。われこそは！という方、あるいは現在執筆中・投稿中の英語論文をお持ちの方は、ぜひ若手セミナーの運営をしております吉井哲会員(名古屋商科大学)、稲水伸行会員(筑波大学)あるいは瀬尾までメール等でご連絡ください。お待ちしております！

第VI期第5回理事会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

進化経済学会 小樽大会 理事会議事録 2015年3月21日

1. 藤本会長挨拶
2. 開催校小樽商科大学・江頭理事より大会開催状況報告
3. 瀬尾理事よりサマースクール開催状況報告
4. 吉田事務局長より会勢報告
5. 新入会員審査および部会活動報告について回覧され、承認
6. 谷口会計担当理事より会計報告
2013年度決算(理事会承認済) 2014年決算中間報告と2015年暫定予算
7. 佐々木選挙管理委員長より理事会選挙報告
8. 理事会選任理事(監査担当)として、廣瀬弘毅・吉地望会員を承認、新年度からの担当役員紹介
9. 価格改訂にともなう学会事務委託内容の絞り込みについて事務局長より説明され承認された
10. 昨秋の理事会で導入が承認された、学会賞およびフェローの規定について確認
11. 八木新編集長より新生EIERについて報告
12. 事務局長より参照基準問題に関する出版についての報告
14. 次年度開催校、東京大学・大西立顕会員より挨拶

進化経済学会第19回会員総会記録

理事（事務局）：吉田雅明（専修大学）

2015年3月22日 進化経済学会総会記録

1. 【議長選出】議長として宇仁宏幸会員が選出された。
2. 【会長挨拶】藤本隆宏会長より挨拶。

3. 【大会開催状況報告】小樽商科大学の江頭進会員より、今回の大会に関して、参加者102名、報告数58、企画7、ポスター6、報告数64、懇親会参加者数74、である旨開催状況報告があった。

4. 【若手セミナー開催報告】サマースクール担当の瀬尾崇会員より、21日午前中にサマースクールが開催され、約30名の参加者があったことが確認された。

5. 【会勢報告】事務局長の吉田雅明会員より学会会勢に関する報告があった。(資料1参照)

6. 【監査報告】監査担当の服部茂幸会員より2013年度決算について間違いがない旨報告があった。

7. 【会計報告】会計担当の谷口和久会員より2014年度決算中間報告と2015年度暫定予算案の提示があり、承認された。(資料2参照)

8. 【理事会選挙】選挙管理委員長の佐々木啓明会員より、選挙結果とあわせて、投票数93名、投票率20%弱であること、並びに次回は電子投票で理事会選挙を行う予定であるとの報告があった。それに続いて、新年度からの担当役員紹介が行われ、有賀裕二新会長より挨拶があった。

9. 【フェローと学会賞の設置】吉田事務局長より、フェロー制度と学会賞設置の提案があり、これを承認した。あわせてフェローおよび学会賞の規定案が大枠として承認され、細部の調整については理事会に一任することが承認された。(資料3参照)

10. 【新生EIER】八木紀一郎編集委員長より12巻の1号よりEIERはオンラインジャーナルとなり、シュプリンガー社から発行されることが報告された。

11. 【参照基準問題】八木会員より、昨年8月に学術会議で大幅に変更されたものが採択されたこと、並びに関係の学会で経済学参照基準に関する『経済学と経済教育の未来』という書籍を編集し3月には発行される予定との報告があった。

12. 【次年度開催校】藤本会長より、次年度は東京大学で開催される旨の報告があった。

【資料1】

進化経済学会会勢

	2014年9月12日	2015年3月21日
個人会員	391 (含：入会2 復会1 休会4)	398 (含：入会7 休会4)
個人終身正会員	4	4
院生会員	58 (含：休会3)	55 (含：入会1 休会3)
賛助会員/団体	1	1
賛助会員/特別	0	0
招待会員	2	2
個人準会員	1	1
合計	457	461

進化経済学会
2013年度 収支計算書報告
(2013年4月1日～2014年3月31日)

貸借対照表
(2014年3月31日現在)

2014年5月10日

収入	予算案		増減	決算額		増減	予算案		決算額	増減
	収入	予算額		収入	決算額		収入	決算額		
全費	4,195,000	4,205,000	10,000	1,000,000	1,034,661	34,661	1,000,000	1,034,661	34,661	
正会員経当年度	3,400,000	3,400,000	0	200,000	369,846	169,846	200,000	369,846	169,846	
正会員連年区分	0	350,000	350,000	0	665,295	-134,795	0	665,295	-134,795	
後身正会員当経年度	500,000	500,000	0	800,000	2,250,000	1,750,000	800,000	2,250,000	1,450,000	
院生正会員当経年度	235,000	225,000	-10,000	100,000	2,776,520	2,676,520	100,000	2,776,520	2,676,520	
院生正会員連年区分	0	30,000	30,000	0	93,720	-6,280	0	93,720	-6,280	
准会員	10,000	0	-10,000	0	0	0	0	0	0	
賛助会員経当年度	50,000	50,000	0	20,000	118,125	18,125	20,000	118,125	98,125	
大会収入	500,000	766,664	266,664	0	17,853	-2,147	0	17,853	-2,147	
オーム・コンプレックス	100,000	145,000	45,000	0	0	0	0	0	0	
オホ会	400,000	621,664	221,664	0	675,124	65,124	0	675,124	65,124	
利息	0	241	241	0	0	0	0	0	0	
寄付金	0	310,000	310,000	0	87,870	-282,130	0	87,870	-282,130	
書籍刊行料	200,000	0	-200,000	0	0	0	0	0	0	
WEB印刷料	300,000	193,340	-106,660	0	33,000	33,000	0	33,000	33,000	
CD販売	0	14,080	14,080	0	0	0	0	0	0	
CDパッケージ	0	363,100	363,100	0	0	0	0	0	0	
当期収入合計	5,195,000	5,821,750	626,750	100,000	4,838,873	38,534	100,000	4,838,873	38,534	
前期繰越金	3,208,179	3,208,179	0	4,835,000	4,191,056	622,877	4,835,000	4,191,056	622,877	
総計	8,403,179	9,029,929	626,750	8,403,179	9,029,929	661,411	8,403,179	9,029,929	661,411	

科目	借方		貸方	
	借方	金額	貸方	金額
I 流動資産			II 流動負債	
現金	0	30,000	前受金	3,500
預金	2,250,117			
普通預金	1,242,436			
郵便振替				
未収金	732,003		III 正味財産	
			次期繰越金	3,208,179
			前期繰越金	982,877
			当期差益	4,224,556
合計	4,224,556	4,224,556	合計	4,224,556

財産目録
(2014年3月31日現在)

科目	管理部門		金額	
	管理部門	金額	金額	金額
流動資産				
現金		0		0
預金	会計担当理事 学会事務局(国際文庫)	三菱東京UFJ銀行 郵便振替口座	2,250,117	1,242,436
未収金		大会預金返金分	732,003	
資産合計			4,224,556	

上記の通り相違ないことを確認しました
2014年 5月14日
進化経済学会監査委員
2014年 5月22日
進化経済学会監査委員

澤邊紀生
服部茂幸

(負債及び正味財産の部)		金額
科目	適用	金額
流動負債		30,000
前受金		3,500
前借金		
負債合計		33,500
正味財産合計		3,208,179
前期繰越金		982,877
当期収支差額		4,224,556
負債及び正味財産合計		4,224,556

【資料3】

進化経済学会フェロー規程（案）

制定：2015年3月21日 理事会

第1条 本学会は、本学会会則第2条（学会の目的）にそつた理論および実証研究、学会運営、普及・教育活動において顕著な貢献をおこなつた会員を理事会の決定により、フェロー（JAFEE Fellow）として表彰する。

第2条 フェローは終身であり、理事でない場合でも理事会に出席して学会活動に対して参考意見を述べることができる。

第3条 フェロー候補者の推薦をおこなうことができるのは理事2名で、推薦理由を記した推薦書を会長に提出してこれをおこなう。

第4条 候補者の推薦を受けた会長は、推薦者以外の理事3名からなる選考委員会を設置し、フェロー候補者としての適否を検討させる。

第5条 選考委員会が第3条で推薦された会員をフェロー候補者として適格と判断した場合、その会員を理事会にフェロー候補者として推挙する。理事会はそれについて審議をおこなつてフェローとしての表彰を決定する。

第6条 理事会はフェロー表彰の該当者に通知をおこない、学会のホームページに公示する。

第7条 本規程の改廃は理事会の決議によって行う。

付則

1. 本規程は2015年3月22日から施行する。

進化経済学会学会賞 規定（案）

制定：2015年3月21日 理事会

第1条 【趣旨】進化経済学の研究において優れた成果を上げた研究者の顕彰のために「進化経済学会学会賞」を設ける。

第2条 【授賞】原則として年一回、年次大会総会において、盾と賞金を授与し、EIER に授賞理由を掲載する。

第3条 【選考対象】募集締め切り時を基準に、過去5年以内に公表された、EIER、モノグラフシリーズ等の進化経済学会の関連する英文出版物を対象とする。

第4条 【選考】秋の理事会において複数点の候補作品を挙げ、選考委員会において選考を行い、年次大会の理事会に報告し、理事会の審議により受賞作を決定する。その結果として、受賞作品なし、あるいは、受賞作品2点となるケースも認める。

第5条 【賞金】副賞の賞金は年額10万円とし、複数の受賞者がいる場合にはこれを受賞作数で等分するものとする。

附則

1. 本規程は2015年3月22日から施行する。

学会費納入についてのお知らせ

理事（会計担当）：谷口和久・福留和彦

1. 振込先の口座番号を下に記載致しました。学会のHPに掲載した場合、不特定多数の目に触れ悪用される懸念もあるのでニューズレターにのみ掲載いたします。
銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード9900、店番109）、預金種目 当座
店名：一〇九 店（イチゼロキユウ店）、口座番号0022493
口座名義：進化経済学会
2. 学会の年会費は学会事務局から郵送される「振込票」を使って振込してください。納めていただいた方のチェックがもっとも簡便にかつ確実にできるからです。前年度まで会費振込みに使用していた三菱東京UFJの口座は閉鎖いたします。振込先は上記「ゆうちょ銀行」のみとなりますのでご注意ください。
3. 振込期限は7月31日です。納入期限を過ぎましても郵便振替用紙はご利用になれますが、督促状の発送を行うための余計な費用がかかります。期限までに納めてくださいますようお願いいたします。
4. 2013年度より会員種別と会費は次のようになっています。詳細は会則（2013年3月改訂）をご覧ください。
個人正会員 10,000円、個人終身正会員 50,000円、学生(院生)会員 5,000円
賛助会員 50,000円、個人準会員 2,000円

会則《付則》の第7、8項より

7. 個人正会員は、63歳を越えた最初の年度より会費5万円を一括納入することで個人終身正会員となることができる。個人終身正会員は会費納入を免除される。個人終身正会員を希望する会員は別に定める「個人終身正会員登録申請書」を学会理事会に提出しなければならない。
8. 個人正会員は、大学院等に在籍する学生およびそれに準じる研究者である場合、申請によって学生(院生)会員となることができる。学生(院生)会員は会費が半額に減免される。学生(院生)会員を希望する会員は別に定める「学会費減免申請書」を学会理事会に提出しなければならない。

会費請求に関するお問合せ先：

〒162-0801 新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

株国際文献社 進化経済学会担当 岸

Tel：03-5389-6493 Fax：03-3368-2822

E-mail：evoeco-post@bunken.co.jp

学会庶務受付窓口変更のお知らせ

2015年度より業務委託先である国際文献社との契約内容の変更により、学会の受付窓口が上記の株国際文献社から下記に変更になりました。今後はお電話・FAXによるご連絡や問い合わせを同社では受け付けません。上記の電話番号は7月末をもって廃止いたします。受付窓口となっていたメールアドレス evoeco-post@bunken.co.jp も7月末で使えなくなります。今後は以下の連絡先へメールでのご連絡のみとなりますので、どうかご了承ください。

<今後の学会への問い合わせ、変更・入退会等の連絡先>

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学経済学部 Tel. 03-3985-2345

事務局担当理事 荒川 章義 Mail：a-arakawa@rikkyo.ac.jp

2014年度部会報告

■「非線形問題研究部会」報告

進化経済学会非線形問題研究部会の2014年度研究会は下記の活動をいたしましたのでご報告申し上げます。活動は電子メーリングリスト evoecoapan のほかに有賀のホームページ (<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~aruka/activities.html>) にて案内しています。

目次

1. 研究会セミナーの開催報告
2. 会計報告

1.研究会セミナーの開催

以下開催した研究会はすべて有賀が主査の科研費基盤(B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号26282089)との共催の形式で開催された。

進化経済学会非線形問題研究部会 2014 No. 1
主催 科研費基盤(B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号26282089)
日時 2014年9月18日(木) 15:00-18:00
場所 中央大学駿河台記念館220号室
ア ク セ ス
<http://www.chuo-u.ac.jp/access/surugadai/>
課題 Influence of the US State Department on the European construction
講師 Bertrand Roehner, University Pierre and Marie Curie, Paris
懇親会 研究会後、簡単な懇親会を開催します。

進化経済学会非線形問題研究部会 2014 No. 2
主催 科研費基盤(B)「システミック・リスクと社会経済システムのレジリエンスに関する研究」(課題番号26282089)
日時 2014年11月28日(金) 15:00-18:00
場所 中央大学駿河台記念館220号室
ア ク セ ス
<http://www.chuo-u.ac.jp/access/surugadai/>
課題 Agent-Based Macroeconomics
講師 Silvano Cincotti, University Genoa, Italy
懇親会 研究会後、簡単な懇親会を開催します。

2.会計報告

収入の部
繰越金 39,254 前期より繰越
部会補助費 0 (補助費全額返上)
収入合計 39,254

支出の部
次期繰越 39,254
支出合計 39,254

なお、2013年4月に150,000円を返納、2013年度も補助費を全額返上した。

このあとに監査人の署名

吉田雅明

非線形問題研究部会 有賀裕二(文責)

■「現代日本の経済制度」部会報告

第1回研究会

日時：2014年4月26日(土) 14:00~18:00
場所：名古屋大学経済学部演習室18(4F)
内容：

- 第1報告 平野泰朗氏(摂南大学)
「文化産業の制度分析」
 - 第2報告 西部忠氏(北海道大学)
「情報化とサービス化の複合傾向としての脱工業化：経済学の今後のあり方へのインプリケーション」
- 全体討論

第2回研究会

：京都大学経済学研究科プロジェクトセンター制度的経済動学プロジェクトとの共催

日時：2015年2月21日(土) 13:00~17:00
場所：京都大学法経済学部東館1階101演習室
内容

西洋氏著『所得分配・金融・経済成長』(日本経済評論社、2014年)を読む

はじめに 西洋氏(阪南大学)
「同書のねらい」

- 第1報告 植村博恭氏(横浜国立大学)
 - 第2報告 藪田竜之介氏(佐賀大学)
- 著者リプライ 西洋氏(阪南大学)

全体討論 (16:00~17:00)

第3回研究会

日時： 2015年3月7日(土) 15:00-17:30
会場： 名古屋大学経済学研究科 演習室5 (経済学研究科棟4F)

報告者：横田宏樹 (旭川大学)

論題：ポワイエ「不平等レジームの多様性」について

文責：原田裕治 (福山市立大学)

■「観光学研究部会」部会報告

2014年度観光学研究部会は4回の研究会を行った。

第22回研究会

日時 2014年6月27日(金)

場所 日本大学経済学部 7号館6階 7064教室

講演1. 下田雅己 (首都大・院)

「韓国ソウル首都圏の公共交通改革—共通運賃制度を中心に—」

講演2. 【招待講演】板谷和也 (運輸調査局)

「日本の地方部における公共交通の現況と観光施策の関わり」

第23回研究会

日時 2014年9月19日(金)

場所 小樽商科大学札幌サテライト

講演1. 堀内和哉 (芝浦工業大学・学生)・小山友介 (芝浦工業大学)

「アニメツーリズムの現状と課題」

講演2. 高野宏康 (小樽商科大学)

「歴史文化の観光資源化における諸問題」

第24回研究会

日時 2014年12月6日(土)

場所 大阪市立青少年センター KOKOPLAZA(ココプラザ)

講演1. 中村 敏 (和歌山大学・院)

「観光交通研究の体系化に向けた現状と課題について」

講演2. 【招待講演】田村 朋久 (国立療養所 長島愛生園歴史館)

「ハンセン病療養所の世界遺産化について」

第25回研究会

日時 2015年3月20日(金)

場所 小樽経済センター

【特別講演】中野弘章 (小樽市観光振興室)

「小樽観光の現状と小樽市の観光施策について」

文責：井出明 (追手門学院大学)

第20回進化経済学会東京大会（東京大学・本郷キャンパス）・オータムカンファレンスアナウンス

第20回進化経済学会は、東京大学・本郷キャンパスで開催いたします。

本年度のテーマは「社会・経済システムにおけるICTとネットワーク」です。

1970年に集積回路（IC）が登場して以来、情報通信技術（ICT）はムーアの法則に従って飛躍的に向上してきました。ムーアの法則とは、ICチップの性能は指数関数的に増大し18ヶ月ごとに2倍になるという経験則です。指数関数的な進化は驚異的で、コンピュータの性能は5年で十倍、15年で千倍、30年で百万倍にも向上しています。我々が日常的に利用しているパソコンは20年前のスーパーコンピュータと同程度の性能があり、携帯電話1台の性能はアポロ11号が月面に着陸した1969年当時のNASAの全処理能力をはるかに越えています。

社会・経済システムはICTを基盤としたものになりつつあり、我々が日々行っている社会・経済活動に関する多様な詳細な情報が高頻度に記録される時代になってきています。これらの膨大なデータから経済状況を高頻度・高精度に観測したり、サプライチェーンや金融ネットワークの全貌からリスクを評価したり、頑強な社会・経済システムを設計したりすることが可能になってきています。一方で、社会・経済システムの全てがそのような膨大な0と1のデジタル情報だけで捉えられるわけではありません。たとえば、心の豊かさや地縁などを数値として正確に測定することは難しいですし、暗黙知や経験知のようなものをうまく扱うことはできません。

時代は日々、指数関数的に急速に進化しています。それに合わせて、既存の学問体系や社会・経済の仕組みも進化させていく必要があります。本大会実行委員会（大会実行委員長：藤本隆宏）では、ICTとネットワークの視点から社会・経済システムを考えることをテーマとして準備を進めています。皆様のご協力をお願いいたします。

第20回東京大会（東京大学・本郷キャンパス） 事務局長
大西立顕

テーマ：「社会・経済システムにおけるICTとネットワーク」

オータムカンファレンス

日時：2015年9月20日(日)13:00～

会場：東京大学・本郷キャンパス 経済学研究科学術交流棟（小島ホール）（予定）

本大会

日時：2016年3月26(土)、27日(日)

会場：東京大学・本郷キャンパス 経済学研究科棟

報告申し込みに関しましては、7月頃に evoeco-japan_new にて告知します。

会員異動

1. 新規入会者

会員名	フリガナ		所属一機関名	推薦会員
渡久地 朝央	Toguchi	Tomochika	沖縄国際大学	江頭 進先生 宮崎 義久先生
加藤 健	Kto	Ken	群馬工業高等学校 一般教科 (人文)	宇仁 宏幸先生、中原 隆幸先生
芳賀 和恵	Haga	Kazue	ドイツ日研究所	出口 弘先生、小山 友介先生
石野 洋子	Ishino	Yoko	山口大学大学院技術経営研究科	寺野 隆雄先生、有賀 裕二先生
段 潤	Dan	Jun	東京大学大学院国際情報学府	田中 秀幸先生、小山 友介先生
中里 裕美	Nakazato	Hiromi	明治大学コミュニケーション学部	吉田 昌幸先生、バコス ユイス先生
田淵 太一	Tabuchi	Taichi	同志社大学商学部	塩沢 由典先生、吉田 雅明先生
大西 立顕	Ohnishi	Takaaki	東京大学情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター	有賀 裕二先生、吉田 雅明先生

2. 名簿訂正

会員名	変更箇所	住所／種別	TEL/FAX/e-mail	所属名
平方 裕久	自宅住所			
立見 淳哉	自宅住所			
江頭 進	自宅住所			
舩田 佳弘	所属先			日本文理大学経営 経済学部経営経済 学科
徳丸 夏歌	自宅住所			
都留 康	メールアドレス			
Manahan Siallagan	種別			
古山 友則	種別			
Mauricio Mora Morgado	種別			
山上 俊彦	所属先住所			日本福祉大学経済 学部
木村 雄一	所属先			日本大学商学部

古山 友則	所属先	[Redacted]	安田女子大学 現代 ビジネス学部
山本 英司	所属先		金沢星稜大学経済 学部
砂川 和範	自宅住所		

編集後記

いつも掲載原稿の執筆にご協力いただきありがとうございます。No. 38 の配信が諸般の事情により予定よりも遅くなりましたことをお詫び申し上げます。

本年度から有賀裕二会長のもと新しい体制となりました。報告担当者も次号から代わることになりますので、これまで同様ご協力のほどよろしく申し上げます。

本年度から EIER, モノグラフシリーズ等の進化経済学会の関連する英文出版物を対象とする「進化経済学会学会賞」が設けられました。是非積極的に投稿くださるよう、よろしく申し上げます。

最後になりましたが、ニュースレターに関するご意見等ございましたらお寄せいただくと幸いです。

ニュースレター編集担当：吉田 昌幸（上越教育大学）